

# 「全国社会教育主事の会」交流研修会

令和6年5月23日(木曜日)～24日(金曜日)参加数:42名

主催:文部科学省 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

全国社会教育主事の会

実施方法:対面及びライブ配信の同時併用(ハイフレックス方式)

全国の社会教育主事等を対象に、生涯学習・社会教育に関する最新情報の提供及び参加者同士の交流・協議を通して、社会教育主事としての専門性を高め、時代に変化に応じて社会教育主事に求められる役割を確認するとともに、相互のネットワークづくりを行うことを目的に、実施した。

今年度は、名称を「交流研修会」とし、文部科学省との共催により2日間で実施した。また、実施方法は、昨年度と同様に、対面での開催と同時にライブ配信も行う「ハイフレックス方式」を採用した。

## テーマ:「社会教育人材の活躍促進を目指した学び合い・支え合い」

### 【参考】全国社会教育主事の会

全国の社会教育主事が広域的に情報交流を行い、時代に即応した専門性を高めるとともに、地域を越えた絆を深めながら、多様化・高度化する社会教育行政の遂行にあたって必要な知識や意識の向上を図り、社会教育主事の全国的なネットワークの形成や社会教育の一層の推進を図ることを目的に、平成29年に発足した組織

### 行政説明 「社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について」

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 課長補佐 山川喜葉

第12期中央教育審議会生涯学習分科会社会教育人材部会「社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について(最終まとめ(案))」の内容から、社会教育人材を取り巻く状況と社会教育人材の活躍促進に係る具体的な改善方策を踏まえつつ、社会教育人材に今後求められる役割等について説明があった。



### 行政説明 「生涯学習振興施策の動向」

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 社会教育人材係長 大澤幸展

生涯学習・社会教育に関する方向性と、その実現のための国の施策等について、特に、今日的な課題に関する多様な学習機会の提供等を中心に、人権教育、消費者教育、自主夜間中学等の設置・充実に係る施策等の説明があった。



### グループ協議① 「今後の社会教育主事と社会教育士等の役割・在り方」と「社会教育関係人材の資質向上に向けた研修等の在り方」について

社会教育実践研究センター職員

地域コミュニティにおける「学びのオーガナイザー」としての役割が期待されている社会教育主事や社会教育士等の社会教育人材について、協議の前半では、参加者自身の自治体における現状と課題について情報共有した。

協議の後半は、前半で共有した現状と課題等をふりかえりながら、社会教育士に今後期待される役割や活躍場面、社会教育主事に今後期待される役割、期待される役割を担うために必要な研修等について活発に協議し、翌日のグループ協議②における話し合いにつながる意見が多く出された。

#### 参加者からの意見

- 社会教育士に期待する役割や活躍場面
  - ・社会教育施設職員として学習プログラムを企画・立案する。
  - ・地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターとしてつながりづくりを行う。
  - ・行政職員でも教員でもない立場から、「新しい風」を起こす。
  - ・各種講座のファシリテーター役として活躍する。
  - ・各種社会教育関係団体において、受講者、資格認定者の輪が広がっていくとさらに効果的である。
- 社会教育主事に期待される役割
  - ・オーガナイザーとして、実態、ニーズの把握がスタート
  - ・研修の実施だけでなく、つながる場を創る。社会教育主事、社会教育士、地域人材、行政担当者等、お互いの強みを共有する機会創出が必要
  - ・社会教育士のデータベース化やメンバーリストの作成
  - ・社会教育士のネットワーク構築
  - ・社会教育主事、社会教育士、どちらにも期待される役割は「人づくり」。同じ方向を見ることが大切



### 報告 「『社会教育主事の配置に関する状況と活躍促進に関する基礎調査』報告」

社会教育実践研究センター 社会教育調査官 白井 淳子

各地方公共団体における社会教育主事の配置状況や、社会教育主事及び社会教育士の活躍に関する実態を把握するため、令和5年度に実施した「社会教育主事配置状況等調査」の調査結果について、分析の結果から見えてきた課題等とともに説明した。



### 事例発表① 「社会教育主事と社会教育士の連携を目指したネットワークの構築」

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課社会教育振興室社会教育班 社会教育主事 藤平 健太

千葉県内の社会教育主事発令等の状況や、社会教育主事及び社会教育士養成の推進のための取組を踏まえ、県が設定している、社会教育主事と社会教育士の学び合いの場である「実践研究交流会」、県主催の研修会や社研からの情報等を提供している「千葉県社会教育主事等ネットワーク」、社会教育主事と社会教育士の連携に向けた課題等について、発表があった。



### 事例発表② 「社会教育主事講習後のフォローアップ研修の工夫と充実」

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課人材育成・開発グループ(北海道立生涯学習推進センター) 主査 中西 めぐみ

北海道立生涯学習推進センターが実施する指導者の養成・研修事業について、発表があった。特に、文部科学省の委託により実施している「社会教育主事講習」を軸とした研修事業について、オンラインと対面の両方の学びの機会を充実させながら取り組んでいる様子について話が合った。



### グループ協議②・全体共有 「各地域における社会教育人材の活躍促進を目指す方策等について」

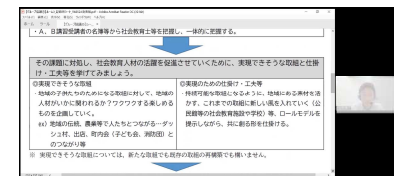
社会教育実践研究センター職員

研修会でのここまでの内容を踏まえつつ、社会教育主事等の社会教育人材の活躍を促進するため、各地域において実現できそうな取組や仕掛け・工夫等について意見を交換した。

協議では、まず、社会教育士の活躍場面を広げる上での課題になっていることについて具体的に洗い出し、体制整備や広報、研修、ネットワークづくりなどの視点から、課題解決に向けて実現できそうな取組と実現のための仕掛け・工夫等について案を考えた。

途中、他のグループメンバーと交流し、新たな気付きを得たり、受講者自身の立場で実現できそうなことについて整理したりする時間を設けた。その後、元のグループへ戻り、交流で得た気付き等を共有するとともに、社会教育主事に期待される役割について、改めて協議した。

全体共有では、社会教育主事に期待される役割を中心に、取組、仕掛け・工夫等について、今後の実践に向けて参考となる様々な提案があった。



### 受講者の声

- 限られた時間内だったが、共有したい内容があり、大変良かった。
- 様々な立場の方々と思いやアイデア・工夫点など交流でき、ありがたかった。
- 研修内容について、参加者にとって、分かっているようで実はあまり分かっていないこと、そして、分かりたい、知りたい、理解したいと思っている内容だった。
- 「協議」のメンバーと「交流」のメンバーが異なり、多くの方々の声を聞けたところが良かった。
- オンラインでなければ、参加することが難しい都道府県の方もいるかと思うので、より多くの参加者が、より良い方法で参加できる実施方法をとっていただけるのはありがたい。